

Economic Indicators

発表日:2020年1月23日(木)

貿易統計(2019年12月)

～米国向け輸出の低迷を主因として、輸出は弱い動きが続いている～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人 (TEL:03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
		前年比	前年比	前年比	前年比								
18年	11月	▲ 7,391	▲ 4,680	0.1	12.5	▲ 1.9	1.8	6.2	▲ 4.5	4.2	▲ 2.7	9.2	3.4
	12月	▲ 557	▲ 1,814	▲ 3.9	1.9	▲ 5.8	3.9	5.7	▲ 10.4	▲ 2.2	11.5	▲ 4.0	▲ 2.4
19年	1月	▲ 14,177	▲ 3,087	▲ 8.4	▲ 0.8	▲ 9.1	10.2	▲ 1.5	▲ 14.3	0.5	11.4	▲ 3.6	3.7
	2月	3,316	673	▲ 1.2	▲ 6.5	▲ 0.7	4.1	4.6	▲ 1.2	▲ 6.5	5.7	▲ 1.2	▲ 10.8
	3月	5,227	▲ 1,812	▲ 2.4	1.2	▲ 5.7	0.3	4.7	▲ 8.0	0.4	▲ 3.1	▲ 10.7	5.5
	4月	535	▲ 1,643	▲ 2.4	6.5	▲ 4.3	5.1	▲ 2.9	▲ 3.4	4.1	1.4	5.6	3.4
	5月	▲ 9,702	▲ 4,902	▲ 7.8	▲ 1.4	▲ 9.0	▲ 1.0	▲ 8.0	▲ 11.7	▲ 1.2	5.5	10.8	▲ 2.9
	6月	5,875	8	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 5.6	2.9	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 3.2	2.8	▲ 6.9	▲ 3.8
	7月	▲ 2,523	▲ 1,398	▲ 1.5	▲ 1.1	1.7	10.0	4.6	▲ 4.6	6.6	9.5	1.4	8.4
	8月	▲ 1,457	▲ 1,053	▲ 8.2	▲ 11.9	▲ 6.0	▲ 3.5	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 6.0	▲ 3.4	▲ 4.8	▲ 4.2
	9月	▲ 1,283	▲ 747	▲ 5.2	▲ 1.5	▲ 2.4	▲ 3.9	0.2	▲ 5.9	6.7	▲ 0.9	8.7	8.1
	10月	128	▲ 765	▲ 9.2	▲ 14.7	▲ 4.5	▲ 6.6	▲ 7.5	▲ 7.0	▲ 6.1	▲ 7.5	▲ 11.2	▲ 7.0
	11月	▲ 852	▲ 919	▲ 7.9	▲ 15.7	▲ 5.1	▲ 9.7	▲ 8.2	▲ 2.7	▲ 8.0	▲ 1.3	▲ 10.2	▲ 8.6
	12月	▲ 1,525	▲ 1,025	▲ 6.3	▲ 4.9	▲ 1.9	▲ 11.4	▲ 6.8	0.5	1.2	▲ 5.0	1.6	0.5

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支(季節調整値)は赤字幅を拡大

財務省より発表された12月の貿易統計によると、貿易収支は▲1,525億円と赤字(コンセンサス:▲1,616億円、レンジ:▲4,549～+1,053億円)になり、ほぼコンセンサス通りの結果となった。

輸出金額は前年比▲6.3%(コンセンサス:▲4.2%、レンジ:▲5.8%～▲2.9%)、輸入金額は同▲4.9%と共に減少(コンセンサス:▲2.7%、レンジ:▲6.2%～+2.5%)した。季節調整値では輸出金額が前月比+0.5%、輸入金額が同+0.6%となり、貿易収支は▲1,025億円と前月から赤字幅が拡大した。輸出はユーロ圏やアジア向けで持ち直しの動きがみられるものの、米国向けは弱い動きが続いている。

○実質輸出は前月比+0.7%

為替などの価格変動の影響を除いた12月の実質輸出は、前月比+0.7%(11月:同▲1.4%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)となった。3か月ぶりの増加だが、過去2カ月の落ち込みからの戻りとしては弱いものにとどまっており、10-12月期でみると前期比▲2.2%と減少している。中国向け等、アジア向け輸出で持ち直しの動きがみられるなど、一部で明るい動きもみられるが、輸出全体としてみれば依然として弱い動きから脱せていない。

特に弱いのが米国向けであり、10-12月期は前期比▲7.4%と大幅に減少している。輸送用機械が前期比▲9.0%と大きく落ち込んだことに加え、設備投資需要の弱まりに伴って一般機械を中心とした資本財輸出も減少している。輸送用機器については、自動車需要が伸び悩んでいることに加え、現地生産の増加にともなって日本からの輸出が代替されている可能性もあるだろう。

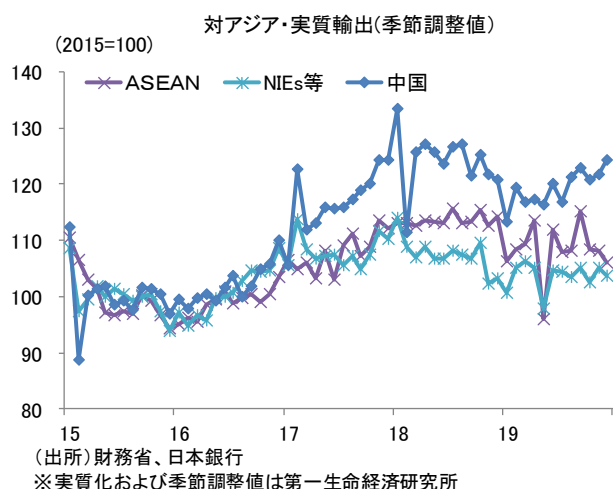
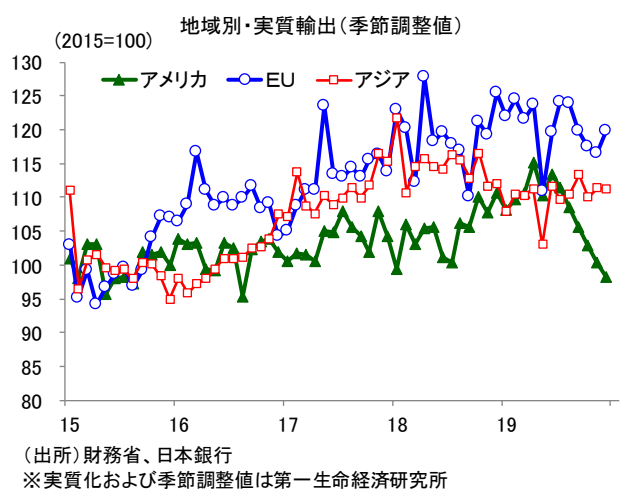
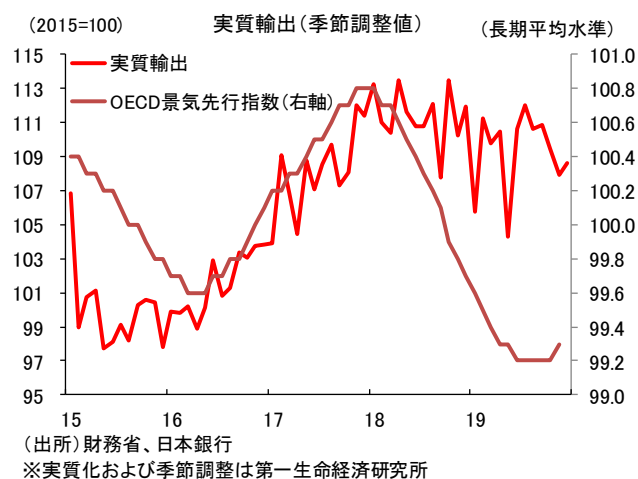
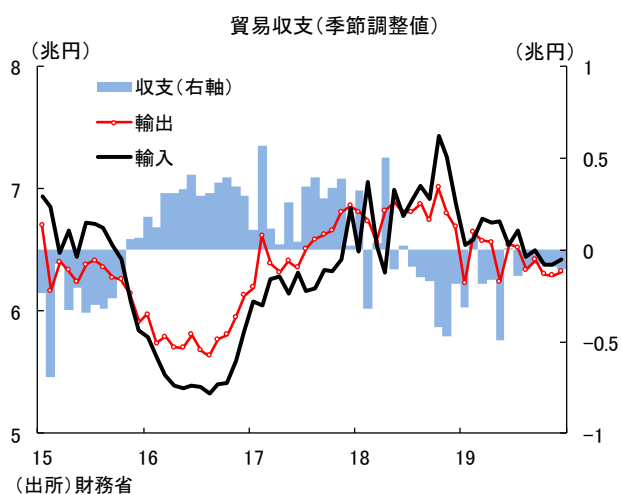
一方で、中国向けは前期比+1.6%と3四半期連続の増加となった。一般機械が同+4.1%、電気機

器が同+1.0%と増加したことが主因であり、IT 関連財の在庫調整の進展や世界経済の不透明感が後退することへの期待感から持ち直しの動きが続いている。

輸出の先行きについては、緩やかな持ち直しを予想する。米中通商交渉の第一段階の合意や英国のEU 離脱問題の進展により、世界経済に対する不透明感是一部後退している。企業の景況感改善による設備投資の増加によって、一般機械をはじめとした資本財は徐々に回復に向かうことが期待される。グローバル製造業 PMI や OECD 景気先行指数等の改善により世界経済には底打ちの兆しがみられている中、今後は海外経済の回復と足並みを揃える形で徐々に持ち直していくことが見込まれる。

○海外経済を取り巻く不透明感はやや低下するも、今後も米中の対立がリスク要因

1月15日に米中両国による第一段階の合意文書への署名が行われ、2月14日から米国の1200億ドル分の中国製品に対する制裁関税について、現行の15%から7.5%への引き下げとなることが決定された。これまで関税賦課の応酬が続いてきた米中協議の一時休戦はポジティブに捉えられる。産業補助金など中国の国家資本主義の根幹とも言える論点は残るものの、米中両国の一時休戦は世界経済の不透明感を低減させるだろう。ただし、米中の対立について手放しに楽観はできない。トランプ大統領は11月に大統領選を控えていることから、経済に悪影響を及ぼす行動に出にくいと思われるものの、関税を交渉のカードとして利用する考えを示していること、過去の対中交渉において硬軟織り交ぜた交渉を行ってきた経緯から、関税が再度引き上げられるリスクは残存している。合意形成の難しい論点が残る中で、今後の交渉は難航する可能性が高く、引き続き米中協議の動向を注視する必要があるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。